

夢想心兵衛胡蝶物語前編

叁

夢想兵衛胡蝶物語卷之三

東都

曲亭馬琴戲編

色慾團

色を元來るれり。なりの。なれぬ。何とを迷ふ。なりといふ。わあ。か。知。こ。色。を
 梢の陽氣は蒸ま。く。春花さ。小。雪。入。べ。花。は。草。木。の。咲。る。り。色。も。亦
 情慾の咲る。り。花。ら。て。實。と。結。び。情。合。し。て。子。と。生。じ。草。木。亦。情。る。れ。ば。
 元。相。惹。の。む。人。を。と。え。て。竹。の。り。の。音。慾。の。害。る。り。を。納。り。て。色。を
 元。來。り。とい。桃。の。三。年。う。て。花。を。人。を。十。六。う。て。色。情。を。あ。て。動。と。い。ふ。も。
 草。木。秋。の。あ。へ。凋。落。男。女。老。と。告。ぐ。い。ろ。け。あ。く。さ。る。り。の。を。あ。い。は。ま。の
 花。さ。い。え。來。は。い。の。れ。も。彼。は。化。さ。う。と。れ。の。あ。ま。は。夫。物。の。咲。へ。人。を。れ。と
 情。む。草。木。の。咲。へ。情。ま。を。れ。と。愛。し。と。暮。々。と。惜。を。騷。客。の。詩。歌。を。吟。ト。

色慾團

酒前ハ舞踏ニ似テ情慾の醜ニ至クニ其好ずりの多ク。或ハ或ハ或ハ
鬪多クを忘るハそれハ其の應とんハ之を謂ハレ。亦の體ハ其類とテ論セ

リテ酒は造まハ飲みの酔むとハ其ハ人との米の體ハ其類とテ設レ
多ハ情慾の醜ニ至ルハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

愛由深言まハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
フケリハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

と云ハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
鳴弱ハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

百八後ハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
或ハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

入腎ハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
街道の挽久櫓ハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

小糸合と定ハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
ハ情云鳳巾とりハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

藤伊の孫ハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
居士河原ハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

汲入其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
名高くハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

名高くハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
名高くハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

名高くハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
名高くハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

名高くハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可
名高くハ其ハ其の血を色ガ皮囊のハ可

の路あり。帯屋の四十里。おまんは倒し。梅枝が三百両。問は隔る。出村
 の玉屋。玉は瑕あり。東金の下銀。金は縁る。化野の尾花。八月の刀屋を
 招ひ。愛護の若松。八手弱女。よりの淨福。理飯の十二段目。牛若皆鶴。姫
 の川体。亦あま。巴。堀河。下る町の中程。よ。おまん。傳兵衛。が賣居あり。町内
 の明為。あつ。さ。と。告。それ。山寺の撞撞。坊。な。後朝。は。氣障
 あり。男。を。廢。ま。兄弟。あ。け。る。媒。用。い。ら。ま。不。く。親。娘。ん
 あり。恋。の。凄。の。繁。昌。へ。下。され。廿。四。文。の。屋。基。店。あ。つ。ふ。し。を。押。の。陰
 よ。立。る。ふ。バ。我。武者。の。買。食。煩。う。先。へ。鼻。と。落。し。百。洞。あ。つ。た。三。つ。の
 大。饅。頭。月。の。臘。は。夜。を。ゆ。ぐ。ぐ。の。物。姿。の。向。え。ど。ぼ。ち。ち。の。お。ち。ら。よ。う。と
 同。人。比。翼。鳥。の。吸。物。の。煮。賣。酒。屋。よ。あり。佐。用。燈。の。化。石。の。珍。物。茶。屋。よ
 あり。玉。蜀。の。大。門。を。夏。挑。の。あ。つ。顔。の。ま。も。ち。ふ。ふ。山。が。の。前。を。押。

て。ま。あ。く。く。る。女。陽。込。め。て。乳。吞。子。を。ほ。せ。男。湯。よく。透。て。生。豊。後。あ。く
 咽。喉。が。湯。が。西。仕。の。ま。賣。も。ま。く。直。が。る。ぬ。く。ま。の。ま。ま。草。の。夜。食
 の。塊。り。程。胸。よ。つ。長。控。業。師。の。一。本。綱。渡。り。と。つ。け。神。ひ。合。ま。り。ひ。ひ
 路。札。あり。八。卦。置。の。十。二。燈。よ。る。ど。ひ。ね。つ。縁。終。は。相。生。の。判。断。あり。花。繡
 の。名。宗。書。判。の。切。お。の。墨。色。く。考。へ。存。気。の。指。切。髪。切。の。空。誓。文。よ
 う。つ。て。件。の。ぞ。ま。ん。二。の。腕。へ。ま。る。冬。の。綱。も。あ。つ。火。三。の。糸。で。括。り。舞。袋
 の。掛。ま。う。一。派。用。を。と。明。止。の。固。藏。の。冷。水。賣。の。砂。糖。よ。ら。な。り。娘。の
 お。まん。婆。の。蟻。の。と。ま。る。氏。の。度。より。ま。く。ま。滴。の。ま。夫婦。喧。嘩。ハ。夕。立。乃
 花。火。より。り。く。婆。ま。か。居。る。揚。弓。ハ。引。込。の。番。網。より。ま。の。氏。藤。陣。屋
 の。女。房。敷。膚。でも。ろ。ろ。團。子。焼。わ。ま。え。團。子。鼻。稀。ま。れ。ハ。會。日。の。植。本
 の。見。合。の。道具。建。よ。つ。ふ。ま。朝。暮。の。関。帳。ハ。中。宿。よ。利。生。あり。乳。母。の

日傘。片半で侍りて。並床で蹴らうと嬢いなり坊主の金剛。而足は
ひんて子守の内證の桐鈴は邪魔有り。井戸端に聚ると夜乃
高定めりと疑ま。摠雪隠よとれ未摘む鼻の臭死と云は賢茶
の張札ハ小使とあるか。讀む在郷の幼刺深ハ都の茶飲女より
あつと。お妾の啓安とまきと顔でう。替古所の格子されたりあけて
人として。お娘さんの裏忌さきて。鼻緒とてささるとれ。隻豆あげく。
額を踏んとする。壁のどく。道落坊が便毒潰て膏茶をとりとれ。
尻膝立て。羅漢よ似し。り。り。按摩。気水と減ら。踏み。導り。
放屁と厭の。陔い。う。で。廣い。の。水。茶。屋。の。前。垂。は。經。い。や。で。老。
りの。半。元。服。の。袖。り。羽。織。浜。打。り。野。下。終。り。と。れ。は。改。次。板。を
鳴し。繩。を。被。り。下。馬。の。受。と。れ。は。嗅。か。半。利。と。譽。く。居。る。昔。此

と。と。今。の。ち。の。ひ。と。な。う。え。お。ん。と。の。お。子。も。ゆ。び。く。大
博。連。と。異。名。せ。れ。残。の。瓜。檀。那。と。の。残。多。死。を。必。持。と。の。年。の。襟。元。よ
る。く。情。人。の。切。ま。る。と。甚。速。く。足。元。を。る。樹。妻。ハ。樽。も。よ。び。起。こ。
か。の。半。束。の。水。髪。ハ。苗。残。を。の。る。よ。あ。ふ。ぶ。お。と。む。ら。げ。の。横。梯。と。
天窗の片荷づり。あ。ら。ぶ。腋。の。下。で。結。び。ま。げ。る。幅。廣。帯。ハ。前。よ。あ。る
りと。と。れ。ハ。忽。然。と。う。後。よ。ある。女。房。の。腰。に。襪。と。長。綱。代。の。花。活。は。
文。殿。と。押。し。備。浅。を。と。怖。ま。び。と。嗅。を。怖。か。男。兒。の。生。を。と。飲。む
し。と。娘。は。嫁。せ。り。定。紋。と。野。夫。り。と。と。色。子。の。習。紋。を。嬢。か。り。
先。祖。の。法。名。ハ。覺。え。ね。と。柘。女。の。名。す。と。う。く。請。む。る。と。ま。これ。色
慾。團。中。品。下。品。の。風。俗。る。れ。ば。苟。く。も。色。気。る。れ。り。の。の。思。は。柘。女。に
夢想兵衛も。今。の。紙。寫。あ。の。放。ま。す。毎。日。旅。終。む。ら。て。足。物。と。出。て

新編古今和歌集



新編古今和歌集



公遠が貴妃陽ハ二番煎じのや刃を。爪取り七石確の尻を。下まき
 薬らひ。松浦ハ石茶の餘毒のを。残る男女哀暮の骨の。さへ八音又皮
 肉の腐縁とる。親類の薰茶。以下のや。でもその驗る。又母の吸
 ふくべ血で血とあふ。ごも愈む。これハ八年が茶よる。れど病ハ劇時
 八年とす。む。現分註を授て。當分の居所。まどつ。百年の命とる。れ
 り。のふ。七日寺の上とる。堂悲。らむ。や。堂痛。らむ。や。予ハ家
 草。自家方の良薬あり。それハの難病と救へ。但。薬ハ調進。よる。は。む。
 見脈と診て。病原と論じ。とれハ。眼中春と生ぜ。も。忽。此。或。ひの。雲。云。毒
 て。了。簡。臍。の下。よ。あ。ら。つ。れ。魂。入。り。く。つ。て。言。う。も。の。人。と。る。い。ま。の。初。悟。神
 の。如。く。病。氣。平。愈。の。後。と。の。人。と。も。毎。朝。仁。義。五。常。湯。を。堪。忍。五。兩。を。加。
 絶。む。服。用。し。て。餘。毒。を。補。い。し。ら。べ。親。子。下。づ。り。の。合。り。し。

とぞ記しける。つぐの浦でも。悉とまぬの。とる。花。療。治。と。あ。は。利
 な。む。後。の。損。の。や。ぬ。り。の。音。と。も。悪。と。も。さ。け。の。つ。ぬ。哀。病。を。野
 の。り。の。人。の。え。と。ま。く。迷。ひ。の。雲。か。を。ま。ら。さ。ら。う。さ。ら。や。か。ん。ご。う。の
 あ。る。ま。い。と。小。了。簡。の。あ。り。の。へ。朝。う。ら。暮。去。兵。衛。を。出。張。へ。結。り。ま。し。て。つ。え
 ける。と。り。の。も。人。を。よ。め。れ。ま。う。つ。て。彼。も。行。じ。れ。も。あ。ら。う。と。次。ガ。マ。繁。男。り。て。入
 口。く。丸。由。さ。ば。彼。家。の。山。寺。院。法。を。附。や。ぞ。く。人。を。耳。を。側。て。聴。ゆ。さ。ら。い
 氣。の。浦。焼。屋。の。息。子。内。の。妻。居。か。高。く。る。つ。て。も。と。ら。爰。中。の。難。症。あ。ら。う
 酒。屋。の。や。と。ん。焼。焼。か。五。死。て。出。の。の。の。と。い。い。相。積。あり。さ。ら。び。點。と。食。ま。ら。ん
 腹。の。大。う。く。る。つ。と。と。の。人。娘。あり。裾。籠。よ。あ。く。と。ま。さ。く。ま。ら。ん。の。甚。か。あ。ら
 され。あ。の。よ。の。日。の。一。番。ハ。か。み。三。十。少。ハ。四。五。つ。も。是。ハ。若。後。家。色。を。さ
 さら。と。向。く。鼻。を。通。つ。く。月。の。と。可。危。ら。く。小。女。妻。の。橋。縮。緬。は。相。應。を。下

見黒彌子の幅廣帯と前でさりと結びおあむ憶せどさうり出さるはさご
 中か素人めりごと愛恋兵衛が高坐の四より膝行しうて志とゆうの會釋
 一とてへえまこの國のりめあふ大日本山城國山崎の百姓何ヶが娘
 あり夫の為よ身を賣し首尾の憂堪難勤の中は親美ハ非業み死し
 事ゆええ身まよりりて後世を帯より外より由り西國順札を
 びひとらるるぬ旅路は紀の浦より北餘人の身合取喚流されては悠
 と名とる國へ思はれど今いづれもなれ夫へまの操の寡婦に昔
 する杵屋が三燈を教てやうやまの命を継掉しす住るれぬ加
 世帯まるとぬ身ひとらるるぬ影ひハ衣々の空るつり死伶傳人
 因果と多くと前の世のりまるとねハ悲ひハもまど神由ららめと
 のと歎ハすと境曇霞をともる晴して何とまらさるる哀病を

るるねとえハ哀こころが身のもの入るるハもまらさるる哀と委細の
 訳ハあらうらふと紫服紗よ包し一冊の本とうとま夢想兵衛受と
 て假名手本忠臣蔵と外類と洗むるる忠臣蔵ハ臨谷の浪
 人早野堪平とらうらあふおらうらめりて秋と聞て去りて備る
 恥しうらうらめりて果てごらうらまをまらそのあや女郎が今下ハ
 事老を親しむるる意の病の療治らうら何とくまらまらと聞人
 間ちつく小膝をまらまらまらまらまら病ハ原と補ねハ全快ハ
 甘ぬとまらまら病根ゆらまら推量まらまらまらまらまら夫
 ハらまの懐り殿のあらまら居あまら最期の供は後まらハハ
 られ越度まら忠義の志ハ人まら務まら浪の身まらまら
 下はまらと石碑建立の金まらて款附の連判まらまらまら

頼む二夫二面のちあまち。男の仇人定九郎と誓と海とを。いねに却て化と
る。あまの返答ゆつり。ま三十はうするべし。腹さくせきえぬ
り。あまの神仏ゆらめく。ま親と一兵衛ゆへ。而姓でこそあれ頼
りの人。あま一人の女児と賣て。解は忠義をよそをいふと。年暮の
夜行と厭つて。金そのへ帰る道あり。定九郎か又よめか。己かを
由大の為は様と捨く。花街の勤め年暮の明るせやういふ。親
夫の精進日ゆ。あままよふり。あまの天道さまも情がほ。あま
忠義ハ月の仇あり。貞女烈女ハ神仏ハ憎る。あまあま。あまの
あまあま。あまの色慾の團は生とく。浮気はまよふか一生の得とナス
り。あまあま。あまの惑いのこや。あまの療治るされて下さうま。と
ま。あまのあま。あまの容解つけ。あまの幸免病。あまの想兵衛ハはく

はて几と礎とまら。あまのほどとまのむつり。あまの世は傳氣なる。娘子とまや。
性のこゝろ息子あり。あまのうらと。あまの思のこゝろ。あまのあま。あまの六眼目のま。あまのま
よるつて。あまのま。あまの月の思のこゝろ。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。
い。あまの愚癡は癡ゆつり。あまのま。あまのま。あまのま。あまのま。あまのま。あまのま。
の腕の息子や娘か。已惚境えと違へて。生忠臣と生貞女の已惚ハ
熱は小才覚か。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。
進せり。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。
と恥のあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。
らま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。
あま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。
不養生。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。あまのあま。

あつて、男の仇人定九郎を撃つると猪をとりて、それを
 と撥揚す。びつとびつと、死人の懐へ手を入ると、財布を
 細く蒐余す。俄頃、紅のうろつと、その賊公。さう定九郎は若らば
 腹のうれみ。かかとつひも、畢竟二玉で撃たれ、男の仇人を金
 の女房賣る金うれば、さうけき。さう、一向その玉は、金く快炮
 の玉が、前羽で旅人を撃ち殺す。とさひろく。完初の周章、さうて
 竊ま、故び不義の助をり。恨の功名、せんともひ。その公、千活れ
 たり。聖人の濁も、盗泉を飲む。賢者の、瓜田は履せ入、鷹の死
 ても、種いつまどと。世より、早野氏も、人の枉死を幸ひ、志を移
 とら、い前の、虚文をり。怨を、取ると、瓜、切と、強盗の武士の
 ろ、よひ、さや、と、あ、と、茶、は、よ、と、人、さ、う、ら、げ、り、と、人、も、稀、め、と

ありて、公、さ、と、て、口、史、を、喰、く、も、傷、痛、け、と、い、の、理、を、説、く、夫、貪、ハ、士、の
 常、る、り、武、士、ハ、食、む、と、高、養、齒、と、い、の、諺、ハ、あれ、と、切、と、強、盗、く、も、大、る
 ら、ん、と、何、の、代、り、か、れ、甚、し、い、恨、を、り、廉、士、ハ、遺、金、を、の、り、ん、ど、
 ち、れ、ハ、早、野、氏、の、大、死、ハ、汝、も、出、く、汝、も、返、る、天、理、を、れ、神、仏、ハ、さ、ら、ん、ど、
 竹、田、出、雲、と、も、恨、を、り、と、さ、る、色、慾、ハ、身、を、倒、と、病、ハ、不、義、の、助、ハ、命、を、痛
 む、毒、を、味、る、り、と、い、く、火、燄、の、り、へ、り、と、れ、日、本、曾、我、物、帖、を、説、く、疑、ハ、人、と
 あり、曾、我、兄、弟、ハ、純、孝、の、勇、士、を、り、結、成、時、致、幼、稚、と、れ、り、又、の、仇、人
 結、成、と、討、人、と、さ、る、志、移、と、れ、十八、年、か、間、百、折、千、磨、の、艱、苦、ハ、何、と、
 結、成、ハ、大、塚、の、廓、の、ひ、と、狂、女、虎、と、相、放、び、時、致、を、化、粧、飯、を、さ、ら、ん、ど、
 榮、り、浅、く、さ、び、と、り、り、仇、を、担、撃、ん、と、さ、り、の、假、初、也、色、慾、ハ、志、を
 移、と、れ、と、真、の、孝、子、と、あ、と、つ、と、曾、我、兄、弟、の、人、と、さ、る、と、考、る、よ

色を好む人はあらず。登り大星氏の祇園町より柱比試せし。仇人
 といふ故まじり計畧るべきはと帯へるもくの杜女ありねば人とあるの
 才ありて君が一夜の情みへ妻か百年の命も惜むごとて結成か為
 したるも。その昔光寺へ赴けしつらうへ。これとの承理せよくも考
 せし。世に君又の仇を寛ぶりの動もされば色慾と志を授けし。いと人
 あり。や幸意と遂るとも。切て玉は服あるがむむ恨むべし。とて
 亦そり下の戸釈又と一兵衛といの百姓ありえあげし人物。ろこひより
 の娘を賣ても。賢は忠義をまをせし。と後釈又どのあかろ。とも母
 けもよりいふせられ。未なるが女あり三従の道あり。家よあつて又より
 後ひ人は適て夫は後ひ夫死しては子よ後人。是所謂三従あり。とれ
 へ既。堪平といの夫あり。その別條へ父母よ告と。隙隙と横牆と諭し。

禰谷合ありとも。又母と親許とを妻とされば。けく夫は従へべし。あうよ
 賣のつ紙。夫は終合して。納めしあまを。あふ深く匿し。親子の
 人内控り極めへ。真実お似ま不実あり。畢竟一文字屋才兵衛。件
 ら合りら。村り夫が主とつれば。とけ告せてまるとれへ身とつら
 す。とるの罪腹は。とれへ承けよ。とれへ意ひあり。匿しとれとあり。可死と
 あり。人は醋とをまるとれ。か家はあをある。隣と貫して。その人は遣せ
 るもの。正直實儀といのあり。凡忠孝信義の為。子と賣妻とを賣
 りの。曾女か教と逐るとれ。子と捨て。坊の子と伴ひ。易丹かその子と養美
 去て。極よま。とれ。同日の苦節も。賢は名聞と好むの感ひ。子と
 坊の子と。とれ。親し親し至親と捨つ。人情よあり。以て子と殺し。媚を
 主屋よ。とれ。虎狼よりあを。彼の子と愛せ。とれ。辛う。祇よ。君とあゆ。

夢枕草子卷之三

されハ誓の乃子と賣つと死ハ誓は素ありといふとも子の乃子不慈の記
 あり居の乃妻と賣つと死ハ誓は忠ありといふとも妻の乃子不仁の夫あり
 門に解つ薪と井を塞いで白とると一旦その用は尽るといふとも王のよけ死
 小あつ夫忠臣の孝子の門は少く烈女ハ清康の家は通勇將の下は弱
 幸あり仁美の御子ハ盗賊あり子は熱する死りの真の義士はあつて夫
 婦の礼を死りの真の忠臣はあつて積悪の力も老てまうかや
 その悪狐学んと死ハ金銭とて七魔の廳の帳面を消さんと云ひ或も
 布施小或ハ堂塔と建立し手の内に入らばは媚て未来の吾然買人と云ふ
 力の借とありまうと愚癡の至り早野氏が百兩の金と調進せり以前
 漁舟の罪と贖ふまうと死ハ世にも大なるもの了簡ありやまうと云
 死と云うらめまうと云ふ一糸の影の影に祇園町あり五十金の身價を受

そ。夜をこめてひとう山崎へゆき一かまは忠地禍にあふり。や金を所
 持せども危れとありの。即ち夜行せむ。死て五十兩と云ふ大金と懐
 あり。野道山坂の境へひるく。ひとうと云ふと云ふ石を抱て深き淵へ
 臨む。危り定九郎は出會ふ。あつて手負猪は野郎。火急
 の金ありとも。あつて嘘と云ふ。これまう招く禍あり。女見と賣
 する不仁の金。忠地を殺ぐ。又とありぬ。豈おそれんや。その牙既も定
 九郎か。又は縫まらかり。脱るりやと云ふ。おんが又遠される。懐の金
 と押隠し。これハ昼食の握り飯。娘か。且返魂丹でござる。勸解
 あつて。あつて。小兒ども欺さむ。あつて。死に候へ。虎もあつて。彼
 既も金と云ふ。争賂話と云ふ。馬の怒鳴ると云ふ。騎べり。靈令
 犬ハ吠び。馬は鞭て。いやく眠る。霊ハ犬を吠ると云ふ。却



手と傷も。慮あつりの。これと近づく。昔漢朝の陳平が楚より逃ぐ。楚
は仕人とせりと死。楚の兵は追まんとす。殊さう道と急死。夜野渡り
さりりて船を借り向へり。二の渡守は強盗あり。この夜網を
張て。舟もかゝると待たる。陳平が船を借るといふ。竊に飲びて
よく糸せり。中流へ漕舟。夫突よ叙えとる。気色を陳平を争う。二
人の渡守は対ひ。これ初きより。水濱よあじふ。船を漕と承りて
おのくま。体も。おのれうと漕べ。といひ申す。衣服と脱て赤裸
なり。かく船を漕へり。盜賊も。この形容と見。さへ。の懐に金ハ
る。り。の由り。奴を殺して何うせん。と。急地よ平。狐疑。終は向へ
る。送る。行。陳平は九死を。一生を保ち。衣服と船を捨て。岸へ
跳り上り。まぐの幸苦とえと。遂は漢の高祖に仕。官位左丞相す。

從のなりぬ亦宗祇法師が行御せり。山崎を越る。盜賊あり。宗祇
が髯のり。死とえ。生髯は。金有り。鬻て賣む。と。ひて。林の中
ま。右ゆ。又と引提。左ゆ。宗祇を投て。既。髯を剪之。と。世
と。宗祇。髯。さ。け。た。り。か。等。の。髯。は。中。に。塵。の
う。世。を。捨。た。つ。と。預。り。れ。盜。賊。大。に。甘。ん。故。て。林。の中。へ
入。り。といひ。傳へ。彼。陳。平。が。赤。裸。より。物。を。示。し。賊。の。手。は。後。
な。臨。機。急。變。の。妙。計。なり。又。宗。祇。が。狂。歌。を。詠。し。賊。難。を。脱。ま。り。て。
この盜賊。り。歌。を。あ。り。決。て。放。つ。り。其。の。関。非。心。非。佛。の。領。あり。
詩。人。よ。遇。む。獻。ぎ。ま。る。れ。と。あり。詩。と。あ。い。人。よ。詩。を。贈。り。大。なる。む。こ。
宗。祇。が。の。寓。言。を。し。ん。され。陳。平。が。才。を。し。と。と。賊。よ。あ。り。て。衣服。と
失。り。況。て。その。餘。の。凡。人。の。物。と。命。と。兩。り。を。全。く。と。ん。ん。山。中。に。賊

と出あひて日か勇。彼も勝づく。これと戦ふ。彼も勇。彼も勝ぐ。その速く
 物を支へて命を保ちまう。り。物に愛惜をなと死の物を夫へおなす。
 命も又うしろ。大に清死りのへ群小。恥を恨とせむ。あんなばよ一
 兵衛。の。狂死。去れん。自業自得。うろ。うろ。天道さまか。あぬ
 う。侍。さ。れ。う。と。く。神。仏。を。恨。ま。い。べ。く。其。の。場。を。去。り。仇。入。
 定九郎。を。怒。り。ま。い。ひ。て。夫。の。為。と。あ。ま。い。ひ。る。五。分。も。透。ぬ。あ。ら。
 さ。て。い。か。め。も。い。ふ。と。通。り。そ。り。が。夫。を。告。ご。う。身。を。賣。ら。ん。と。い。ひ。つ。り。い。
 り。ひ。ち。か。い。も。せ。し。夫。の。為。と。あ。ま。い。ひ。る。亦。も。あ。ん。か。當。時。早。野。氏。の
 入。聲。なり。年。老。も。い。一。両。親。へ。孝。順。の。り。の。あ。ら。ん。と。只。管。は。身。を。賣。ら。ん。
 希。い。一。不。孝。の。う。の。不。孝。と。い。は。れ。あ。ら。兄。貴。平。右。衛。門。の。祇。園。町。を。い。て。
 よ。め。ご。り。公。家。と。夫。の。横。死。を。告。ご。う。と。い。は。れ。あ。ら。一。兵。衛。と。い。は。れ。あ。ら。

うち驚さなり。堪平ハ腹切死せり。すくすく。俄頃まろつめ。
 ろく。死。ん。と。せ。り。親。と。夫。と。その。思。愛。が。ま。ろ。ち。死。腹。へ。さ。れる。その。日。慈。
 傷。の。ま。ま。い。と。あ。も。親。夫。の。精。進。さ。ま。ぬ。そ。の。不。孝。の。罪。と。い。は。れ。あ。ら。
 り。の。上。に。これ。と。殊。勝。つ。あ。ら。堪。平。の。口。の。乾。り。を。以。て。物。作。り。ん。か。
 ぞ。と。い。は。れ。あ。ら。非。業。を。死。で。も。あ。年。の。う。堪。平。の。あ。の。三。十。三。の。ち。に。死。
 ぬ。と。い。は。れ。あ。ら。朽。す。く。と。い。は。れ。あ。ら。不。孝。千。万。の。口。上。り。あ。ら。あ。ら。あ。
 ま。心。間。ち。ら。う。了。簡。由。は。祇。園。町。を。一。夜。の。う。ら。ふ。二。度。月。か。出。た。り。と。い。は。
 かり。あ。ら。う。の。う。げ。と。い。は。れ。あ。ら。か。跡。か。ま。る。と。死。入。の。山。科。より。一。里。半。と。い。は。
 月。か。入。果。さ。る。の。う。その。後。九。太。夫。か。縁。の。う。ら。ふ。文。と。う。い。は。れ。あ。ら。月。影。は。
 透。り。あ。ら。い。と。い。は。れ。あ。ら。一。晩。は。月。が。二。度。出。ね。月。影。あ。ら。透。り。あ。ら。い。と。い。は。
 り。ネ。ド。の。あ。ら。い。と。い。は。れ。あ。ら。一。月。と。い。は。れ。あ。ら。一。月。と。い。は。れ。あ。ら。い。と。い。は。

かつも。むうのり不考る貞女といふのり。親と夫の恩愛を天秤よりけ
 められ。その天秤が折るると。軽重なるのり。下や。親を年より重し。されば
 非業なる死をさる。されても。是非か。夫は。年より。下。後切て死。其の
 悲。も一倍。ま。と。夫。の。不。せ。時。も。人。の。せ。れ。ぬ。口。上。る。の。り。下。や。
 全作夫の為なりとも。既。は。親。の。客。月。を。汚。し。て。年。季。分。明。と。な。り。又。四。の
 夫。に。ひ。と。り。よ。う。と。お。ひ。の。は。怒。り。と。出。た。了。簡。ち。が。ひ。を。女。の。公。操。と。正。し
 ども。道理。を。ま。ぬ。恨。る。り。か。る。り。の。り。金。朝。全。傳。と。い。ふ。小。説。に。翠。翹
 と。の。入。箱。入。娘。が。金。氏。の。息。子。と。夫。婦。の。ひ。と。い。ふ。と。い。ふ。婚。姻。の。そ。の。り
 ども。の。り。下。や。親。又。か。身。は。係。り。不。慮。る。と。起。つ。て。囚。徒。と。な。り。し。り。の。り。親。と
 救。ん。為。り。己。正。派。ゆ。い。翠。翹。か。身。を。賣。て。その。罪。を。贖。ひ。し。既。は。親。の。人。に
 身。を。汚。され。し。り。結。髪。の。夫。は。恥。は。ぬ。人。と。な。り。妹。と。り。て。彼。金。郎。と。妻。と

ころ。道。は。至。極。の。始。末。の。り。と。是。一。且。賊。首。の。妻。と。な。り。それ。よ。う。し
 の。り。冤。を。報。ひ。し。る。の。り。女子。の。才。覚。よ。う。な。り。と。な。り。よ。う。し。論。を
 と。れ。ハ。修。早。野。氏。が。恙。を。く。て。世。よ。う。と。も。恥。を。ま。へ。年。季。あ。け。後。は。尾
 と。る。よ。う。い。ふ。貞。を。破。て。貞。を。全。と。り。下。年。季。あ。け。又。舊。の。り。と。り。
 夫婦。よ。う。い。ふ。と。い。ひ。の。り。怒。の。妻。か。ぬ。ね。の。怒。ひ。る。り。二。人。川。上。り
 一人。溺。り。と。れ。と。れ。と。救。べ。二。人。り。よ。う。と。も。溺。り。と。れ。ハ。救。ひ。し。り。か
 一人。溺。り。と。れ。一人。岸。よ。う。の。り。溺。り。て。救。へ。便。あり。二。人。と。り。溺。り
 と。れ。ハ。二。人。水。中。に。あり。と。れ。溺。り。て。救。ひ。し。り。夫。婦。に。救。え。た。ま。へ。る。り
 怨。名。利。の。潮。目。し。ゆ。多。く。夫。ハ。妻。を。救。へ。便。あり。妻。ハ。夫。を。救。へ。便。あり
 親。ハ。子。を。救。へ。便。あり。と。る。と。る。と。正。鶉。の。鬚。を。ど。翻。轉。し。その。根。卒。ハ
 ぞ。か。か。い。つ。と。り。起。つ。た。れ。罪。障。の。り。消。滅。せ。ば。あ。は。れ。徳。圓。の。り。保。ま。る。り

それゆゑの事なればと二十は下ぬ娘小娘は後家とて子を親夫の
 菩提とて用ん吊せんぞ。格とるひも熱よ捨とらん世は存命て色慾
 團へ伶伴といひ言ふ境の門らひにこれとて人負女とて恥る心へは
 其國の娘子ともかまざる年もゆくぬらう。いづづの志の死とて有得
 る家より標致とすまれば。あまも支度金とせらる。その男の榮光と
 りよ及び後方の状を引きて左團でとらざるも。世への往くあり
 るもひは。天道滅を照らすも。依仗具負はるるさぬ苦とありハ
 ぞより氣も涙む。かゝの氣もあるも。潮合るされてしとすませと
 志とすは物くれば小浪ゆりよ手とつて。母の前の宣ふく。そまのり
 ちと後およる。の豫て思ふのえりぬれ。そまが殿はといひ力
 まん。外へも人國へつて。そまはさういひ祝かあらんと外へ

男とてつとえのやちやくとぢひつる。一生後家てんをの成。樂へて居る
 よ。亦も妻のよき慾國へ吹流しひ。風の神もあなり。桐慾世は負女
 とひのの。龍神や風の神の情をせらふといひ祝を。安て惑ひかまらん。正
 る。療治るされと下らませ。志の病にやるけいふも。夫をあらう
 え。そらひのるのやう。おそまをるも口のうち。谷の戸あけて常の枯木
 よ。宿の風情の。夢想兵衛うち笑まそ。つやくそりの病症も。志の病
 の困。このや。祝又加古川氏のふあひ。つやくすふんもある。症あり。正
 る。たま。ま一人るま。それのつづそれと。そのの病症を。いふ。
 負女とて自誇志。まん不結髪。の夫でも。婚姻ゆり。結な
 る。女子の。つづつ。い。婦と。あ。既。枕井。屋
 敷。賢。司。の。つ。つ。力。使。者。ま。ま。ま。ま。ま。甚

まづうらむとぬいゝ志すもるるにさびかたるとカ跡が長坐しとけ合
 の支度でもあつるなりふ膳もさへなまじり侍。是はそれのそとにいふ
 りく。一俵奴よちの膳かそとまのりく。縦内縁の色はとく。大切なる主
 用は女子をさう次は中。口上の間ちかひあつてた。といふ所は氣もつら
 ぬ事
 礼節といふより紙。家たつりゆあふれさば。さうな僕もごさうすい。その
 了簡ちかひうら。志やふむ娘か婚姻と整てやうとく。山科くけての
 推さ嫁入り。塩谷殿と抱さあつて恨かあれ。大星氏の不承初と
 理の當移。さうと精く奉養よめ。主君よすの暇と清く。女房子
 よりふもさうさ。虚を備ふ物とて。さうのさう。カ跡又殺されて。判友
 と抱さあつる帳面と消させ。その夜の婚姻とさう結ばさうと。悉皆狂
 人の少休なり。兼合が舞殿とさうの人情とさういふ。いふ人

ゆる不吉人も。若人の部へ入。貞女は似る大御婦も。貞女の部へ入
 じ。ようづ人の氣さる。大御婦一よされば。いふのも又。其の字は。いふ
 こそ。紙咄め。これより甚し。たよむ性。あまど。勸懲を宗とせ。唐山
 の小説もさう。絶て有。さう。桃井殿の家老職あつて。あつちりある
 あつちりあつちり。さう。亦その夜鏡の針あつて。さう。奉養よめ。大星氏の
 内室。お石どの。瓜膝の下。細布とさう。その子とて。一寸も免されど。
 カ跡か直さま。滄とさう。加古川氏と刺さあつて。さう。あまど。さう。さう。さう。
 由良之助か。さう。顔で。さう。あつちり。さう。奉養よめ。さう。あまど。さう。さう。さう。
 さ。腎力跡か。手よつて。さう。奉養よめ。さう。あまど。さう。さう。さう。さう。
 その又と殺して。その女児と。さう。子の婦。さう。あまど。さう。さう。さう。さう。
 殺されて。さう。女児と。さう。妻と。さう。信と。さう。いふ。さう。さう。さう。さう。さう。
 殺されて。さう。女児と。さう。妻と。さう。信と。さう。いふ。さう。さう。さう。さう。さう。



害せぬへるる時一斗千。うせとひら。又を教むりの結髪あまのむすの夫おとこなり。
あつればカ弥カミと又の仇あやととると死しの負おとるべ亦またこれと誓ちかとて。怒いかと
報むかふれば考かんるもど。又も否いなととるも。夫おとこも否いなととるも。又の枉かま死し由よし
且かつれかゝるれば只ただ連つは死しさるの外ほかなり。うらま誓ちか姻いんの稱なづのぬら死しの
自ま害がせんとせし。その早はやまかむる人とすて。まう秋あきの登のぼりて入いりて由よし
自ま害がせむ。忌い服ふくの遠とほ慮りを縁ゆかりとと。その夜よとて。こまむ杖つゑと並ならへり。
淫いんを樂たのむよあつと。とて。何なんぞや。わづかむ。義ぎ理りとさうらふと。信まこと
恨うらみあつと。うて。を慾よく國くにへ吹ふ流ながし。もひり。更さらも慾よくの罪つとを懺ざん悔げてよ
とて。神かみ仙せんの骨ほね折おり。悉しつ悲ひる。神かみのこり凡かん夫ふと。むとせ。あて
貞ちか女よなり。母はは形かたちる。ふのあつと。月つきの神かみも龍りゆう神かみも。憎にくむ。ゆの
る。とと。天あまと恨うらむ。人ひとと恨うらむ。うとて。愚おろ癡ちの至いたり。甚いたり。た

逢あひる。嚮むかふも。田た前まへが標ひら致し。そと。入いり。王わう衣い直ちひ。が。是こゝへ。毎まい度どヤス
る。あつ。賢けん女にょの義ぎる。と。又また人ひとの賢けんる。衣い色しきを好あむ。一生いっせうの。と
あつ。顔かほ色いろの。長ながく。と。擇えらむ。い。あ。女にょ房ぼうも。熟じゆくの。妓ぎも。あ。つ。や。よ
あ。浮う気きの。食くの。を。も。れ。論ろんす。され。ば。と。累かさねの。や。う。女にょか。ふ。ん。と。い。り
へ。る。け。し。と。志こゝろの。の。賢けんと。擇えらむ。顔かほ色いろを。擇えらむ。と。あ。か。と。え。ん。と。
後あとの。疾はや擇えらむ。と。擇えらむ。も。と。ん。と。あ。る。本ほん意いの。賢けんと。え。う。ち。れ。り。の。
男おとこの。と。と。い。て。い。る。至いた極ごく。執しつあ。る。と。似にれ。と。名なを。好あむ。と。あ。つ。と。始はじめ後あとの。
と。と。あ。つ。と。その。男おとこの。賢けんと。あ。つ。と。一ひと旦いつ。と。結むすん。と。縁ゆかりの。糸いとを。ね。い。と。
と。と。あ。つ。と。あ。つ。と。人ひと人ひと。参まゐり。飲のむ。首くび縮ぢむ。と。つ。り。女にょ兒ごは。貞ちか女にょと。ま。と。せ。ん
と。と。あ。つ。と。推おし忌い。と。あ。つ。と。嫁よめ入いり。由よしと。ま。と。結むす納なと。返かへさ。れ。と。い。り。と。あ。つ。と。
え。ね。は。つ。と。あ。つ。と。家いえは。養やしなひ。あ。つ。と。大おほ星ほし親おや子こが。仇あや人ひと師し直ちかと。あ。つ。と。

ちて。腹さつて後ハ。小波女郎を尼寺へ登せ一生不犯の比丘尼と為り
 巴里に居りて。婚姻を結ばせぬハを。親の慈悲なり。さうとや
 そろく。了簡が。臍の下へ。ちりつた。と。同る。扇をひいて。胸
 ちりあひげ。おろろ。戸南瀬小波の。忽ち。送ひの。雲霧。て。恥
 まい。悲しい。その。日。来。り。か。姑。終。の。火。あ。つ。る。人。か。世。あ
 稀。る。貞。女。と。す。千。義。理。が。結。成。の。あ。ま。し。事。と。い。の。う。ま。已。惚。く。
 げ。よ。も。さ。う。と。日。れ。く。ゆ。り。て。神。仏。を。恨。ま。し。義。理。を。死。了。簡
 ち。ひ。お。療。治。を。受。け。し。る。義。理。の。受。け。し。る。ま。う。ま。お。不。え。く。面。目。以。身。由
 ごと。う。せ。ぬ。と。感。候。袖。を。絞。り。あ。を。義。理。兵。衛。の。遺。体。と。く。さ。も
 ぶ。ん。さ。も。あ。ん。ん。か。飛。ぶ。た。つ。れ。ま。い。本。復。せん。と。疑。ひ。し。と。以。お
 かん。港。口。の。と。り。戸。南。瀬。が。後。者。息。由。と。く。ま。り。居。て。戸。南。瀬
 母子とあり。おれを。吸。び。こ。秘。頭。を。か。き。う。く。と。以。日。破。船。を。被。覆。て。頓。風
 を。ま。つ。と。吹。か。す。う。い。風。か。す。と。る。今。纜。を。さ。く。と。の。と。船。が。出。る。の。か
 何。し。と。い。ふ。一。日。由。中。日。本。へ。ま。り。ま。り。ぬ。と。い。ふ。あ。り。て。義。理。兵。衛
 が。療。治。の。効。驗。を。是。れ。と。す。と。利。り。の。と。三。人。の。女。子。ハ。嫁。し。と。あ。り。つ
 て。礼。を。い。し。す。味。む。す。暇。を。と。と。く。後。者。と。つ。ま。二。散。お。借。の
 の。え。を。り。あ。く。され。ば。日。群。集。の。男。女。ハ。あ。り。小。波。亦。が。病。症。を。逐。一
 々。と。歎。息。し。の。咽。で。ハ。氏。神。の。ま。う。ま。お。深。久。松。三。勝。半。七。ボ。か。と。
 文。霧。伊。左。衛。つ。か。所。認。梅。川。忠。兵。衛。が。道。行。る。と。い。ふ。さ。う。く。義。理
 と。ハ。お。め。の。ろ。憐。み。る。と。千。と。感。は。堪。へ。と。れ。より。づ。と。ま。あ。り。ゆ。え
 二。三。く。り。の。由。る。貞。女。烈。女。と。あ。り。し。る。あ。り。女。郎。や。小。波。小。察。の。あ。の
 へ。も。齟。齬。と。す。ば。義。理。は。稱。ぬ。と。ま。り。況。て。何。と。も。法。と。も

易と憎む。古の言をまゝとせよ。見や古の漢用をまゝ。昔、古用をまゝ。各
 の言所のて。歌舞戯の身舞戯の世畏の。是、慈國ハ慈國乃
 世畏の。おぬが有用の辨とりて。己を非の用と捨おぬが目前乃
 理と推て。己が理外の。己の。人との言とりて物と嗜。齒とりて
 水とをらん。ととらり如。それつら。おぬが為体とる。又、齡四十二
 及び妻もろく。年ハ豊なる。肚、饑さるる。面つた。世ハ
 るれども。寒さる。よふ。父母の。國よ。牙をおた。ねて。そり。己さる
 ち。ま。つた。の。養。齒。で。ぬ。この。間。と。と。び。る。さ。う。ら。ひ。さ。ら。
 陝ハ。偏。徹。枯。る。理。屈。い。よ。れば。と。誰。か。と。れ。と。う。喫。べ。た。この。國。よ。由。
 己。さ。る。の。ハ。コ。ク。と。ら。る。の。と。ま。る。さ。る。よ。あ。ら。じ。僅。一。五。の。曉。と。一。
 於。こ。と。ら。る。た。は。遂。に。誤。と。改。る。よ。至。と。と。顔。回。由。長。生。其。ハ。聖。人。と。ら。る。と。

孔明也上壽と保ば玉とる。蜂游も朝も生ま。夕は死。さ。ら。胡
 蝶。ま。ち。を。ま。あ。ん。椋。花。由。七。日。衰。む。椋。ま。ち。を。な。か。め。あ。ん。さ。慈。國
 の。男。女。も。五。六。十。を。世。よ。の。ん。お。ぬ。か。教。を。ま。と。ど。と。賢。人。自。子
 と。る。一。人。の。悪。ハ。世。の。中。に。ま。る。ま。る。の。信。せ。れ。と
 ち。こ。を。練。り。と。た。ハ。執。う。機。と。ち。の。ん。か。願。と。と。た。舌。と。弄。ば
 ち。を。細。首。う。ら。ち。と。と。ま。ん。と。罵。る。雷。の。と。又。と。閃。つ。跳。り。鬼。て。
 几。を。礮。と。破。ま。ば。の。勢。ハ。辟。易。一。群。集。の。男。女。ハ。推。つ。つ。つ。つ。
 東西へ散乱。一。次。の。日。より。後。一。人。も。夢想。兵。衛。ハ。療。治。と。請。ま。り
 の。の。け。せ。ば。ま。の。よ。の。願。ハ。歎。待。と。る。旅。宿。の。あ。ら。由。工。さ。り。ひ。て
 一。日。中。あ。ら。う。と。あ。ら。か。あ。ら。ふ。戸。南。頼。亦。は。後。船。一。日本。へ。波
 づ。り。し。と。後。悔。と。と。ま。ら。ざ。ら。ば。い。ろ。く。旅。宿。を。立。ま。り。港。口。の。方

へ赴くは繁を捨てる漁船あり。こゝに至るは長兵衛の忽地曉て横手
と拍を懸よの足身と宴とを困あり。釣るものなるは。羨みあふし
とあるは今をうらむ。一艘の漁船あて主なるは。彼浦嶋儼人が
強飲貪婪の二國へハ。私せりと送りやと。宣ひは是のふじ。さうりやくと
ひとり長改内りと。纜と解とひとく。不忠強や四方真闇よりつて
浦風帆と吹来り。私を忽地澳へ吐くと去るとる。正箭よりゆすへく。
千里ゆくや。万里ゆくや。めくむせう。吹流さく。一昼夜やて
彼風をいめて軟く。酒の匂ひ芬々と。鼻の邊を通る筋強飲圃の
大湊底被の浦は著より。

總評

道は達より。道はより。人情は通より。人情はより。人情はより。

公道人情両る難し。尚公道せりと論されハ人情と如何人情の
随は統けハ公道と缺く。只理せりとこれを推とたハ柱は勝して。琴を
濁るか。夫みぐるをいどを被せら。みぐるをいどを被せら。得を得る
もの。これ人のゆきをいどを被せら。得を得るもの。人の適くは適て
みぐるをいどを被せら。得を得るもの。人の適くは適て。盗路ハ利飲と重と
を各ゆるす。そのゆきをいどを被せら。相置るとは。声の大なるもの
これハ勝相聞ハと。猛りの必おこれハ勝。彼が勝べると。示とせり。
こまは勝もの。仁と重とを。所以勝落の眼力ハ真の強弱を。見ど。成りて
もの。仁と重とを。所以勝落の眼力ハ真の強弱を。見ど。成りて。成りて
まりの。必。勝り。強が。設夫人。天。天定て
人は勝天の弱は。人の強さ。実の固より。血衣。敵

か。小ハ固より。大ニ敵一カ。苟も情慾交れとれば。仁義由これ
ハ勝。一條の箭ハる角。十條の箭ハ折。思愛とを慾
とハ人情の聚。所人ハ絶。け。山ハ。四ハ。人情の聚。ハ。必。濁。
水清。け。ハ。魚。住。人。清。れ。ハ。慾。寡。一。清。三。紙。捨。て。濁。ま。は。び。
安。れ。を。取。り。て。危。ま。ま。樂。む。そ。紙。り。て。濁。る。の。ハ。い。く。濁。り。危。な。り。の
ハ。い。く。危。一。既。ま。ま。の。危。ま。紙。ある。知。く。と。い。く。も。要。く。ハ。紙。取。中
ま。も。る。母。砂。あり。泥。の中。ま。も。刺。る。れ。ま。も。ど。これ。を。懼。て。ま。紙。り。の。を
擇。も。擇。も。人。ま。紙。ま。ま。ま。ま。只。子。の。獨。と。慎。む。ま。紙。

夢想兵衛胡蝶物語卷之五

